

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0572308005
法人名	ホプシー 有限会社
事業所名	グループホーム ホプシー
所在地	潟上市天王字上北野71-8 (電話) 018-873-7728
評価機関名	財団法人 長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5-1-1
訪問調査日	平成21年6月17日

## 【情報提供票より】 (21年 5月28日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 3月 15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤14人, 非常勤2人, 常勤換算15.4人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

## (4) 利用者の概要 (5月 28日現在)

利用者人数	17名	男性	1名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	75歳	最高	98歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	熊谷内科医院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者はグループホームの設立を決めた段階でいつも暖かい雰囲気の中でその人らしい生活ができるように支援のあり方を考え今日まで職員と協力しながら真摯に取り組んできている。利用者の意思を尊重し接していることが利用者の自然な笑顔や会話から伺える。また、ホーム名はゆっくり成長していく優しい色合いのホプシーという樹木からつけられている。実際、開設から6年が経ち確実に地域に根をはり毎年柔らかな新芽を出しながら事業所は着実に成長している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) アセスメントやモニタリングの重要性についてはすぐに改善に取り組み1月1回のミーティングで利用者の状態や介護状況について細やかに検討している。苦情、意見については申し立てやすい雰囲気を作り玄関に記入用紙を置いている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者は自己評価において今後更に力を入れ取り組むべき項目を明解に捉えている。職員全員が事業所の理念を理解できると同時に一人ひとり介護目標も掲げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、民生委員や利用者の家族も参加している。日々の生活の様子を運営者が報告し、会議の中で今後の課題が出され検討がなされている。内容は職員に伝達され、課題についても十分な話し合いを行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪問した際は、苦情なども遠慮なく話せるような雰囲気作りをしている。3ヶ月に1回ホプシー便りを発行している。個別の暮らしぶりについては、月に1回様子が良く分かる内容の手紙を郵送しお知らせしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の運動会、盆踊りなどの行事やクリーンアップ活動などにも参加し交流を深め、常に連携が取れる良い関係作りに努めている。将来的には事業所主催の行事に地域の方たちを招待できるよう準備を進めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の気持ちに沿った介護を心がけ、その人らしい生活の継続を念頭に置いた理念を掲げている。また、理念の中に地域との交流の大切さも取り入れられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員はしっかりと理念を共有し、ミーティング時確認をして、日々の介護は理念に基づいて行われている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事に積極的に参加したり、毎日の買い物や散歩に出かけた際も、地域の人々と挨拶を交わしたり、地域の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価で日々の介護を見直すと同時に、外部評価での改善点についても前向きに検討し取り組んでいる。運営者は全職員と話し合うことでサービスの質の向上を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、職員に伝達し更に充分話し合い更にサービスの質の向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、利用者の状態、事業所の状況を定期的に報告している。運営上での法的に不明な事柄は、随時質問し返答をもらっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時は、日々の暮らしぶりを会話の中で伝え、更に定期的に便りを郵送する際に丁寧に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所側では家族が意見や苦情を出しやすい雰囲気作りに配慮している。出された意見は記録として残し職員で対応を検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットであるが利用者が混乱しないよう、ユニット間での職員の異動は行わず利用者が落ち着いた環境で生活が継続できるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は個々にサービスの目標を掲げ、勉強会に積極的に参加している。運営者は研修案内を全職員に周知し受講希望を支援していると共に各職員のレベルに合った研修計画を立てている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域のグループホームで連絡会を立ち上げ、事業者間相互の訪問を行い、交流を図っている、その際に連絡会で同業者と交流することでサービスに対する不安なども話し合い解消できている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	管理者はサービス利用前に自宅を訪問し事業所の雰囲気を伝え安心感を持ってもらえるようにしている。また、本人が愛用していた品や思い出の品を持ち込むことで事業所に徐々に馴染むことができるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者が自然に感情を表しやすい雰囲気作りをしている。利用者の得意な料理方法を聞き、一緒に作る等、お互いの学びの関係が構築されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の事前訪問で、本人の思いや希望を聞き職員全員に伝えている。気持ちをしっかり表現できない利用者に対しては日常の会話や動作などから思いを受け止める努力をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が気持ち良く暮らすための課題はサービス開始時に把握するように努めている。月1回のミーティング以外にも機会を見つけケアについて本人や家族と意見交換をしている。		一人ひとりの利用者のアセスメントはできているが本人の得意な事柄、以前の趣味などの記入欄があれば尚その人らしい介護に結びついていくものと考えられ、今後に期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個々に応じて、期間を定め見直しを行っている。また、変化が生じた場合はその都度見直し、本人、家族、職員間で話し合い新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の体調に変化が生じた場合は家族、かかりつけ医と密に連絡を取り利用者の負担とならないような受診を支援している。また、外泊中の支援も柔軟に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と十分話し合い納得が得られたかかりつけ医、歯科医、薬局と事業所は良好な連携ができ、随時相談が可能で利用者は適切な医療を受けられる体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、かかりつけ医と早い段階から話し合いを持ち、情報を共有している。全職員で話し合いできるだけ家族の意向に沿った対応を実践できるよう努力している。		終末期のあり方を現在検討中である。運営者、職員共に更に話し合いを重ね本人、家族も納得がいく方針が打ち出されることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の重要性についてミーティング時に再確認を行っている。一人ひとりのプライドに配慮した言葉かけがさりげなくされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの買い物の希望や入浴時間の希望を尊重し職員は希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と職員と一緒に近隣のスーパーのチラシを見ながら楽しく考えている。食材の買い出し、調理、片付けなど職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴は週3回と決めているが利用者の希望で曜日を変更したり、夜間の入浴を行ったり、一人ひとりに合わせた支援も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が生活の中で、得意分野で力を発揮できるように配慮することで、できる事が自信に繋がり、張りのある生活を送ることができている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って毎日散歩に出かけたり買い物の支援も行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	夜間のみ玄関に鍵をかけている。居室は鍵はなく玄関も日中は鍵をかけていない。訪問者があったときはチャイムが鳴るようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、地域の消防団と共同で年に数回避難訓練を実施している。地震や風水害時の避難場所は地域で決められた所となっており協力体制が確保されている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた量や柔らかさへの配慮ができています。適切な栄養バランス、水分量が確保できるよう栄養士に相談し助言をもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は掃除が行き届き衛生的である。居間の窓からは菜園やホプシーの木、お花が見え季節を感じることができる。玄関や居間には季節の花が活かされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には本人が大事にしていたものや使い慣れたものを持ち込んでいて居心地良く過ごしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。